

| | | | | | | |
|-------|-----|-----------------|-----|-------------------|-------|-------|
| 施策No. | 政策名 | 生きがいや育む学びのまちづくり | 主管課 | 生涯学習課 | 主管課長名 | 大宮 利和 |
| 2-5 | 施策名 | 文化財の保存活用 | 関係課 | 商工観光課、学校教育課、都市整備課 | | |

1. 施策の目的と成果把握

| 目的 | 施策の対象 | 対象指標名 | 単位 | 区分 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | 33年度 | |
|----------------|--|---------------------------------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている。 | ・市民 ・桜川市内に存在する文化財 | ①桜川市人口 | 人 | 見込値 | 41,278 | 41,008 | 40,738 | 40,467 | 40,197 |
| 実績値 | | | | | 41,278 | | | | | |
| ②指定文化財数 | | | 件 | 見込値 | 126 | 126 | 126 | 126 | 126 | |
| | | | | 実績値 | 126 | | | | | |
| ③登録文化財数 | | | 件 | 見込値 | 99 | 99 | 99 | 99 | 99 | |
| | | | | 実績値 | 99 | | | | | |
| 施策の意図 | | 成果指標名 | 単位 | 区分 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | 33年度 | |
| | | ①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合 | % | 目標値 | 84.7 | 86.7 | 87.7 | 88.7 | 90.7 | |
| | | | | 実績値 | 83.2 | | | | | |
| | ②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合 | % | 目標値 | 54.2 | 55.2 | 56.2 | 57.2 | 60.2 | | |
| | | | 実績値 | 50.1 | | | | | | |
| | ③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数 | 人 | 目標値 | 1,525 | 1,625 | 1,725 | 1,825 | 1,925 | | |
| | | | 実績値 | 1,831 | | | | | | |
| | | | 目標値 | | | | | | | |
| | | | 実績値 | | | | | | | |
| 成果指標設定の考え方 | 「文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている」は、①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合を、実績値を80%に維持することにより継承出来ると判断した。②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合を実測値50%に維持することにより維持出来ると判断した。③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数を増加させることにより、施策の意図が醸成されると判断した。 | | | | | | | | | |
| 成果指標の把握方法及算定式等 | ○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合、②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は、市民アンケートより求める。③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数は、真壁街並み案内ボランティア受付簿より求める。 | | | | | | | | | |

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

| | | | |
|-------|--|--------------------------------------|--|
| 実績比較 | <input type="checkbox"/> 成果がすべて向上した | <input type="checkbox"/> 向上した成果が多かった | <input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態) |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 低下した成果が多かった | <input type="checkbox"/> 成果がすべて低下した | |
| 背景・要因 | 指標①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合は、幾分減少した。②郷土の伝統文化・行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は、28年度まで増加傾向にあったが、29年度は減少した。③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数は昨年度よりかなり増加している。背景には、継続的に進めている文化財の保存整備時事業の完成度が高まり、市民へも浸透してきた。伝統的建造物群保存地区(真壁の街並み)や史跡真壁城跡の発掘・整備・指定文化財(雨引山楽法寺、月山寺等の建造物等)の修理、歴史の道調査、活用などは、保存修理とともに新たな発見を伴う事業であるために、その公開普及活動などを通じて、市民意識の向上を保ち、大幅な減少を防いでいる。また、名勝桜川を含めたヤマザクラの保護・活用に取り組む市の姿勢は、市内外からも注目を浴びることにつながり、歴史と自然両面の重要性は幅広く認識されるようになった。その結果、文化財保護活用に対する市民の意識の向上を保っている。活用事業への参加者数については、企画展示、歴史講座などを中心に、真壁伝承館資料館の来館者数、歴史講座の参加数など高レベルで維持し、市内外の交流人口も軒並みで、市民の参加意識も高いまま維持している。そのことは真壁の街並み案内や指定文化財紹介等の従来の歴史講座の開催とともに、将来性のある事業を見出していることが大きく貢献している。特に歴史の道や城下町のウォーキング、真壁城跡の薬草・ハーブなどは、人気が高い内容である。そのため、今後のさらなる充実により大幅な向上がみこめる。 | | |

2) 成果目標の達成状況

| | | | |
|-------|---|--|--|
| 実績比較 | <input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った | <input type="checkbox"/> 目標値を上回ったものが多かった | <input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を下回ったものが多かった | <input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った | |
| 背景・要因 | ①文化財などを大切にし、後世に継承していくべきと思う市民の割合は、29年度目標値84.7%に対し、83.2%と1.5%下回った。大幅な低下を防ぎ、現在の成果を出せた要因は、新たな講座や企画展示などで、身近な文化財を紹介し、修理を終えた文化財の一般公開等の開催によって、市民が文化財にふれる機会を多く推測される。②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は29年度目標値54.2%に対し、50.1%と4.1%下回った。その背景としては、人口減少等により、市内の伝統行事や文化財継承者が不足する傾向が続き、市民の認知度の低下傾向が大幅には改善出来ない状況があげられる。③真壁街並みボランティアを利用した人数は、29年度1525人に対し、1831人と306人大幅に増加した。その要因としては、街並みがマスコミやメディア等に取り上げられ、市内外から関心が高まり、交流人口が増えたためと推測される。 | | |

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

| 施策の成果実績に対しての総括 | 今後の課題・方針 |
|---|--|
| H29年度事務事業評価の結果から、貢献度の高い事業は、事務事業シート9.10.13であった。9.指定文化財等維持管理・調査事業は適切に行われ、10.埋蔵文化財確認・試掘・発掘事業は昨年度より増加している。13.国指定史跡真壁城跡保存整備事業は、整備基本設計に基づき、発掘調査及び保存整備事業を実施した。 | 文化財の保存に関しては、着実に基盤が出来つつあり、市民の関心や注目度も高い。今後は活用に向けて、文化財事業に対する啓発活動を積極的に実施したり、新たな魅力ある事業を展開することによって、市民の文化財に対する意識の向上を図ることが必要である。 |